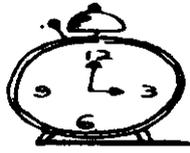


2 . 夕陽に染まる釜山港



今日も陽は西山に懸かり

暴風雨は幸いにも今日は止んだので安心して過ごすことが出来る。夜には雨が降ったり止んだり、今は私を訪ねて来る人の服が濡れないよう、雨よ、降ってくれるな。チョン（煎）を焼き、チャプチェ（雑菜）を炒め、あなたを待つ心、台所では忙しく、その匂いのみ私の部屋を訪ねて来るなぁ.....早くおいで.....洋酒の瓶の栓を抜けば、かぐわしい一杯が今夜の私の夢を楽しくしてくれるのか.....長い間の禁酒を今晚にも補ってくれるのか.....いつも明るい心を大切に、睦まじいパーティーが始まれば、老人の残命が延び、皺の寄った肌も若返らせるのか.....！希望の時間だ。いつも睦まじい人生は、その時間を延長してくれ、生きる張り合いを一層濃い線で浮き立たせてくれることだろう.....？どんな病の障害も近づけないよう、そして艶のある体と心が、この人生が尽きるまで続いておくれ.....。

楊貴妃

子供の頃、筆筒の隅の天井の下の壁に、ピンポン球の大きさくらいの丸い物を糸で縛ってぶら下げてあるのを発見し、母さん、あれはなに.....？と聞いてみた。それは薬と言うことだった。何の薬.....？というと、お前達がお腹が痛いとき飲めば治る、とのことだ.....一度私が腹が痛くて下痢をしたが、それを煎じて、その汁を一口飲むと直ぐに治ったことがあった。その名前はエンスツガッ（罌粟の実の皮）と言う方言だった。罌粟という。付け加えると、麻薬の一種で、政府から、家庭で植えると処罰されると言う。

20年前だったか、ある友人が粟粒くらいの大きさの黒い種を何十粒かくれて、これは罌粟の種だが、10個までなら法律で許されているから、家の庭に植えてみろと言った。私はその種を植木鉢に播いてみたら、とても可愛い花が咲いた。再び種が出来、私はその種を維持しておこうと考え、毎年種が出来たら播いておいた。ところが毎年花がだんだん小さくなり、鶉の卵くらいの大きさに衰弱して、遂にはその種を絶やしてしまった。可愛い花はそれだから楊貴妃（罌粟）と言ったのか……と過ぎし日の罌粟の姿を思い出している。

涼しい風と音楽に酔って

昼食時に飲む少量の酒はさっぱりと醒めるものだが、また酔ったのは何に酔ったのか……窓を通して吹いてくる涼しい風とオーディオから聞こえる音楽の艶かしい歌声に、神仙を体験していたところで、老いも若きも安息の瞬間は心の快樂の極致だ。空は再び移り変わって、夏の日差しに移行し、風がこれを冷やし、人間生活を安逸にしてくれる。空はいつの間にか青色から柔らかな灰色に変わり、下の方に見える海での、コンテナ埠頭の鮮明な光景とのコントラストがくっきりとしていて綺麗だ。

海では船の行く道は忙しいばかりだ。ぼんぼん蒸気が海に白く長い線を引きながら、静かな水に波を立たせている。私は仙人になって、羨ましくもないといったふうに、遠い山から近い海辺の人間の生活を鑑賞している。今日も陽は西山に向かってひたすら漕いで行く。いくら経たぬうちに、雨に苦しめられたお月様が薄ぼんやりした半月となって星星を導いて来るだろう……。

砂時計の撮影地 正東鎮

東海（日本海）の小さな簡易駅正東鎮は、新年には日の出を見るため人出が多い所だ。その近辺にも景色の良いところが幾らでもあるのに、どうして正東鎮なのか……？人気ドラマ「砂時計」の撮影地だと自慢げに書いてある観光案内の立て看板がその理由を説明してくれているようだ。しかし本当の理由は別にあるようだった。正東鎮と言う地名が物語るように、そこはわが国で最も早く日の出を見ることが出来る所だと言うことだ。だから人々は新年の朝、最も早く浮かび上がる太陽を見るため、そんなに遠くから寝もやらず訪ねて来るの

だ。

元旦だと言って太陽自体が特別なことはない。太陽が2倍も大きいわけでもなく、その太陽を最初に見たからといって福を受けることもない。但し時間の流れは同じだが、駆けつけて、1年に1度巡って来る希望に満ちた元旦を迎えることに意味があるのだ。元旦にあの東方で初の太陽を迎えようという、希望に満ち神々しい気持ちを1年間持ち続けながら生きて行くことが良いのだ。

待つ時間

病院の時間に合わせて家内と一緒に朝から診察を受けに行ったが患者が満員だ。家内は大分前から治療を受けていて、今日は診察を受け薬を貰いに行く日だという。私は昨日重い物を持ち上げたら腰がギイッといって昨夜は動くことも出来ないほど痛みがひどく、ひょっとして骨が傷付いていないか、X線でも撮ってもらおうと一緒に来たのだ。患者が超満員の病院で、名前を呼ばれるまで暫くの間待っていた。診察を受ける順番が来て院長室に入ると、鄭院長が喜んで迎えながら、今日は家族みんなまで出て来られたのですか……？私が、いちどきに出て来ました、と言ってみんなひとしきり笑った。

診察を受け、骨は傷付いていないと思うがX線を撮ってみたらどうでしょうか……？というと、骨は心配することはありません、大丈夫です、という。私は安心して注射を尻と腕にしてもらい、今度は薬の出るのを待つ……1時間以上テレビを見ながら待って帰って来たが、今日は終日病院で過ごしたような気分だった。病院を知らずに過ごして来た最近では、自信を持って生きて来たが、歯科、眼科、そして……また……このような生活の流れがいつかはどん詰まりに来て、終末を見るようになるのか……？と絶望的にも思ったりする。

風が吹き抜ける通路の要所

昔は扇風機も貴重で、一般家庭でも買う状況ではなく、自然の風で夏を過ごしたが、唯一の風は団扇によるものだった。夏、外出するときはみんな扇子を持って歩き回ったが、夜は道端で、海辺で、あるいは田舎道を歩き回るのが、風に当たってくる唯一の方法だった。近頃は真昼でも外出するとき、家族に何処に行くのかと聞かれて、答えられない場合は、ただ「風に当たってくる」と

言えばよいのだが、これははぐらかしながら答えを拒絶する手段だ。

夜は家の隅に寝台を置いておき、家族が集まって座って、月夜の下ほのかな月影に詩が生まれ、和合が生まれる美しい昔を追憶しながら、机の前に座り、腰の痛いのを我慢しながら混乱した想像をしている。ソウルと釜山そしてリビアの上空に向かってソウル空港を飛び立つ前に電話で連絡してきた長男に関連して、チャンアン洞のアパートの11階で全快することのない病で呻吟している下の子や、みんなのことが朝の私の心を揺さぶっている。汗が流れる……暑い2階……と思いながら窓を開ける。涼しい風が一瞬のうちに汗を冷ましてくれる……何故……窓を開けずに汗を流していたのか……？しかし習慣だ。窓を開けておくと埃が室内に入ってくるという、戸を開けなかった家中の者達の言葉が耳にこびりつき、そのようになったようだ。風が吹きぬける通りの要所は窓だったのに、塞いでおいたので暑いばかりだ……と、誰が何と言っても風の通り道を塞いでは駄目だと思っている。

不安

昨夜は一睡もせず時計の針が3時30分を指しているなあ。昨日は崔洞神経外科に行き、詳しい診察を受け物理療法を受けたので相当良くなったようだ。しかし寝るときと起き上がるときの腰の痛みがひどい。今日も行って治療を受ければもっと良くなるようだ。そうすれば完全に治るときまで毎日通院すればよい……ソウルの子供は手術後抗癌剤治療をしているが、博士の話では「治療を全く受けなかったら50%が死に、約1年間治療すれば30%が死に」そうすると20%の人は1年間死ぬ苦しみをし、1回行って注射すると15万ウォンの治療費で、月150万ウォンの病院費用が掛かるという……若干矛盾した話が心に引っ掛かる。

私はこのような抗癌剤治療をすれば100%の安全保障になると思っていたのだ……！私は子供は息子2人、娘2人だが、婿も合わせ孫まで入れると19名の家族だ。これが自動車事故だとか病気にかかるとかすれば、と今まで考えても見なかった不安感を持った……初めて手術した子供に対して博士がそのように話をしたと昨日聞いたので、不安な思いで一晩中眠れずそれだけ考えていたのか……？

そうではない……考えることがなかったので、眠れないことを殊更大きく考えることになる。19名の中で、女房と私は行く先が見える残命があり、ソウルで83歳の姉も生きている。良くない色々な不運を経験してきたので今では

すべてのことが不安だ……先ず私でも回復しなくてはならない……と心配する……その間酒も飲まずに過ごしたが、インナさんの話に、酒は若干は構わないと言うので、昨日の夕方は焼酎を丁度2杯飲んだよ……！構わないようだなあ……私は神経が鋭くなったようだ。押し黙った持ち味で生きればよいのか……？生きるマツタンアリ（味の方言）はないけれど健康には良いことだ……と思いつつ今打鍵をしている。コンピューターを恐れる私の友人達が見れば、私のことを、眠りもせずに気が狂ったと言うだろう……でも眠れないときはコンピューターが一番良い。

トンポルレ（お金の虫）

私としては早く寢床に入って休むつもりで、灯を消して真っ暗な夜、静かな夜を平和に休息する積りだったが、寢付けずに外灯の灯りに照らされる天井の反射に時折視線を送りながら、色々なことを目を閉じて想像していると、時間が経つのが随分速いように思われた。娘は昨夜11時50分に車でソウルの子供達のところに行くという、品物をあれこれと買い集めて、労わってやるための上京を楽しんでいるのだ。今日は孫娘が職場の研修認可を3日間受けて上京するので、やはり母と娘が同じ旅路を楽しめるだろう。その間は年寄りが2人だけで過ごし、やはり今日も崔洞整形外科に行って昨日と同じく物理治療をして、一日も早く正常人になってカップルで歩き回らなくては……と望みを掛ける。

こんなことを考えて暗い部屋で目を閉じて天井に向いていると、右の肩を何かそっと通り過ぎるようだ。私は反射的にポンと起き上がろうとしたが、腰と腹が裂かれるように痛い。そうなのか……？私は病気なのか……と、座布団の下に入っていった黒い動物は油虫のようだと思い、座布団を左手で寝たまま強く押し付けながら息が出来ないようにしておいた。それから用心しながらやっと起き上がり電気をつけて座布団をそっと開けてみると、約4cmくらいに見える百足だった。私はぞっとした……私は百足が嫌いですよ……少しほのぼのと夜が明けて、女房がちり紙で掴んでおいた百足をそっと開けてみると空しく死んでいた……「トンポルレ（金の虫）」だよ……という。殺してはいけないのか……？という、今日お金が出来るはずだったが、殺したから出来ないという。

私にお金が出るあてが何処にある……？職場があるのか……と笑ったが、女はお金といえば嬉しがるなあ……！そんなことが分かっていたら私は道を誤

ったのだ……公務員をやらず、金が良く稼げる商売をして、すっかり稼いで、そんな時大きな札束で一塊ずつ、「おい、着るもよし、食べるもよし、敷いて遊ぶもよし、……」。財閥達は金の使い方を知らぬ……本当に馬鹿だ……金をうまく使わなくちゃ……私などは誰にもやらないぞ……女房に、金を数える暇もなく、気を失うほどやればどんなに喜ぶか……？そんなときは頭を使い、金を数える秘書を雇えばよいのさ……。

眠れないわけ

眠ろうとしても動くとも腰が痛い。あの注射、物理療法の奴が効果がないのか……？と試してみるが、電磁波防止ソケットを注文したのが思ったより早く到着し、それを設置しようと無理してそうなったようだ。明け方2時までテレビを見ていると女房が寝ないせいで、私は何回も目が覚めたり眠ったりして、遂には眠ってしまった。ところが屋上から石の塊が落ちる音がして再び目が覚めた……「泥棒……？」と首を上げたが体が上手く利かない。

以前なら夜中の3時に何事か……屋上に走って上がったのに……だが腰の奴が痛くて起き上がれない。腰が治りさえすれば……屋上ぐらいのことが……空にでも飛んでいくぐらいの……。

しかし階段の灯りをつけた。後の窓際の壁では何か音がする……「ニャアオ」私が腰が一寸痛い猫まで私をからかうのか……夜中に年寄りが眠っているのに……この猫の奴、様子を見よう……と……一人で興奮する。5時の朝拝には欠席しようと思ひ……6時に大門を出て暫く歩いていると鼻柱に冷たい水が一滴落ちる。雨が降っているな……と再び引き返し家に戻る。傘を取り出し、また大門を出る。椅子に座る姿勢なら腰も支障がない。今日は日曜だから病院に行かない。昨晩は女房のテレビ、そして「ニャアオ」の一族のため眠れなかったのを、今日は補充しようと思ったが電話が掛かってきた。

「兄さん、今日は時間がありますか？」……こんな時は時間を作らなくてはいわざわざ久し振りではないか？昼に会って……また折角の対面、酒の一杯はなくてはならないな……！腰の痛みも酒が薬なのさ……

夕陽に染まる釜山港

黒雲に黄色い夕陽が雲の間から力なく滲み出てきて、釜山港はコンテナ船が白い水の流れを長く引いて、黒く穏やかな波を分けながら通り過ぎる。

あの船はアメリカかロシアに行く輸出品のようだ。東の空は墨のような雲に包まれていて、夜中にでもひとしきり土砂降りになるかもしれない。大小の船が釜山港に入って来る……。

日が暗くなるのでねぐらを探して帰ってくるようだ。前の家の屋上には白い洗濯物が一行にゆらゆらと風に踊っている。

日が暮れているので秋風のようなようだ。ゴムを燃やす匂いがするので良く見ると隣でゴミを燃やしているようだ。明日があるといっても、今日一日を送る生き甲斐がない。今日は何をしたのか……？何もしていない。惜しいことだ。空しく過ごす歳月だったのか……？

おまけに腰が痛いので正常人の実績に及ばないことさえも切ないことだが、誰をか恨まん……直ぐ治ると信じてても良いのか……？と言いつつ今日ももう一度騙されてみよう……医者言葉を……夕陽に染まる釜山港を見ながら気持ちを静めよう……。

我思う故に我あり

17世紀のフランス哲学者ルネ・デカルト（1596～1650）はスコラ哲学に満足せず、新しく目覚めた主我的意識すなわち近代的自我に立脚した哲学の体系を立てようとした。

そして彼の哲学は名著方法論序説第4部に出て来る上の名言に集約される。彼はありとあらゆる既存の観念と自分自身の感覚までも疑って、「方法的懐疑」を推進させて行った結果、疑う余地がなく『確固とした確実な』こととして最終的に発見したものが正に『私は考える、それ故私は存在する』と言う真理だった。一切を否定してしまってもその否定の作用をする自我だけが相変わらず残る。

それ故、考える自我がすべての哲学の基礎にならなくてはならないということだ。デカルトはこの真理から出発して、物質に対し精神の優越を主張する二元論を確立したことによって、近代的観念論の先駆者になると同時に、彼の数学的唯物的方法論は近代科学にも大きく貢献した。

現実から離れたこと

それは過去だ。時間と流水は見えて消えれば再びやって来はしない。懐かしくても捕まえられない過去は、煩惱と悔いを現実に残しておいて去って行く。過去の記憶は現実において頭を乱す。脳は、記憶に残り生かされ消えたことを整理している。記憶に残さなくていいことを残したとき、煩惱と悔いを蘇生させることになり、これに対する得失は、必要不可欠な得があるかと思えば、失として害を与えることもある。それらは生命が連続する間は避けることが出来ない運命だ。罪悪は間断なく思うままに行われている。それは自身の生命を維持するためには仕方のないことだ。

農事に必要な牛を食べることも残忍な行為で、命のあるものを殺すのはすべて犯罪になると仏教では教えている。イブが、摘んで食べるなど言った果物を摘んでアダムと一緒に食べ、人間に原罪が継承され苦勞しながら生きることになり、その罪は永遠に罪の対価を償うことになるという。

それで垂直的なキリスト教では神様に祈り謝罪しながら誠を捧げ、水平的な仏教では仏様を通じて祈っていると言う。人間の心は誰もが同じ誠を尽くし、間違った過去に赦しを乞いながら生き死んで行くことが義務だと思う。

柿の木

いつの間にか、こんなにふさふさとぶら下がっている柿は、このまま熟すれば100個にはなるようだ。昨年は何個かの柿が生ったが鳥の餌になり失望したが、今年は沢山生ったなあ、と一人で喜んだ。公孫樹、棗の木など果樹はみんな切ってしまうと、実の生る木としては柿の木一本だけだ。

公孫樹の木は背丈がとても高く、ひ弱い花樹が陰になって思い通りに育たず、棗の木は虫がひどく沢山付き、白樺には果実が育たない。それだから実の生る木は柿の木一本だけ育てることにした。

この柿の木は約20年前に金海から新種の品柄だと3株送ってくれた苗木を植えたのだ。だが大きな公孫樹の木の下で我慢できず、2株は枯れてしまい、他のところに植えた1株だけ生きて来たのだ。これまでに枯れていたなら柿などは夢にも思わなかっただろう、と大切に育てている。この近所に柿の木のある家は我が家の他にもあるようだ。

いつか、この近所の中国料理店にチャジャンミョンを注文したことがあった。待っても配達に来ないので電話を掛けた。柿木の家に行ったが注文していないと言われたそうだ。調べてみると、柿の木が何本もある家がもう一軒あったと

いう。だから我が家だけに柿の木があると思っていたが、我が家以外にももう一軒あったようだった。秋になればしゃあしゃあと鳥達が沢山集まって来るだろう……その時、鳥達が食べるために少し残しておいてやろう。

世界人口が 99.7.19 09:05 に 60 億を突破

世界人口が今日 9 月 19 日 09:05 分に 60 億を突破したと言う。1960 年の人口より 39 年振りに 2 倍に増えたと言うが、これからのことが心配される。人口が 2 倍に増えたのにしたがって人口の 3 分の 1 は食べる物さえ足らなくなると言う。

わが国の人口は 60 年代から 3% の増加、75 年度からは 1.6% の増加、90 年度からは 1% の増加だということから、先進国に入るわけだと言う。わが国の人口は現在 4645 万人で、世界 25 位だと言い、北韓を合わせると世界 14 位になる

と　　い　　う　　。

(KBS 報道)

座るよりも横になるほうが楽だ

立っていることより座ることが楽で、座ることより横になることが楽だ。当然な話だが……時によっては反対に横になることより座ることが楽なこともある。人の心情と体の不自由の訴えにより変質することは仕方のないことだ。人が横になっているときと座っているときの心情は、生と死の分かれ道にいることを感じるときもある。気が確かなのに体が土の中に入って行けば、生き埋めになっても仕方のないことだ。座っていればそんな薄情な不祥事はないのだ。それで座ることは楽なことなのか……？

どうせ座っていたので、横になることなく今日の行動を始めよう。心の安定を講ずれば体も楽になる。生き埋めにならないから生命の危険も感じない。腰はコルセットを使用すると楽だ。体だけでもない。コンピューターも若干気持ち悪くさせる。貯えておくことが気に入らない。そして 97 の編集機で位置が変動する。こんなことは私の技術不足だが痲痺が起きる……体……コンピューター……音……すべてが梅雨の天気予報と関連のあることだ。

雨降る日

雨は静かに降っている。風がない日の雨は情緒と共に訪ねて来る。落ち着いた気持ちでいると、クリニックへ治療を受けに行かなくてはならないことを思い出した。風呂の中に入った。1時間程度を腰の治療にかこつけ静かに送っていると雷鳴が騒々しい。遠い所で何が壊れようと私には関係ない。だが水道の蛇口から流れ出てくる水流は運が悪ければ感電する恐れがあるという話を聞いたことがあった。私はそれを思い出して素早く水道の蛇口を閉める。温かい湯の中で今日の仕事を考えながら腰の治療を熱心に行っている。

時間が近づく。雨は一層激しく降っている。娘は自動車の準備をしている。大雨に用心しながら病院のクリニックへ行った。患者は多くなかった。幸いなことだ。直ぐに私の名前が呼ばれ治療室に案内された。ベッドに横向きに寝て背中に注射を数箇所打ち、電気物理療法をした。もう全部終わったので出て行ってよいと看護婦が言う。腰が痛いので起き上がるにも骨が折れる。やっと起き上がって歩いていくが、注射を打った背中に拳くらいの大きさの鉄の塊を背負って歩くようだった。

だが雨がひどく降るので、我が家の車に来るように言って、乗って帰る途中で腰の鉄の塊がいつの間にかなくなり体が軽くなった。帰りがけに自動車をTAPSTOAに止めることにした。

出て行って菓子とパンを買って来るように言い、そのほかに必要な物があつたら買って来いと言った。家に帰って夕食はパンにするか……？とも考えた。3人の家族が残ったご飯でピビンバを作って食べ、パンで補った。

何でもいから興味がある文章を書いてみようとしたが、先ず腰が痛くて落ち着かない。風が騒々しく吹き始める。明日も雨が降るのかな……？明日は朝早く蔚山へ補綴のために我が家の車で行かなくてはならない。実は腰のための禁酒と言うより補綴のためだったのだ。8月1日からは禁酒を解除する。

空に穴が開いたのか

眠りが覚めて見ると強く降り注ぐ雨の音が聞こえ、トイレに行けば滝の音のような勢いで水の流れる音が雨の降る量を知らせてくれる。巨済、南海は500mmの雨が降ったと言い、そして予報によれば豪雨警報も出されたと言う。少し前まで雨が降らないので田が裂け、水が足りなくて農民達が心配している

と言う話を聞いた。ところで、幾らも経たずにこのような土砂降りの目に会い、すべてのことはなくて心配……多くて心配だ。水だけでなくお金でもそうではないか……？お金がなくてご飯も食べられず勉強も出来ず不幸な生活をしているかと思うと、お金がうんとあって外国にまで行って賭博場を開いておいて外債を増やしているかと思うと、お金を残して帰ると、1瓶20万ウォンの洋酒でなければ飲まず、社会奉仕とは縁遠くなり、少年家族を助けようと言う話が出れば2千ウォンが大金のように与えながら威勢でも張る人間性が墮落した人格となり、国民から物笑いの種にもなりもする。

社会において、国のための協力は貧困層が最も多く行き、富裕層は金儲けのみに汲々とし、金集めの趣味が最上かと思うと、その2世は金を使うので悪徳が助長される。だから、なくても不幸、あっても不幸だ。

祈りを捧げながら無能であることを紛らそう

夜中に雨が若干降ったようだ。窓を開けてみると、外灯の明かりで道路がきらきら光り自動車が通ると水がはねる音をする。静かな夜明けだ。だが時々窓が風で揺れる。それだけでなく、突然大きな喚き声を上げる腹を立てている風の音に、恨を和らげることの出来ないその心情を汲み取ることができているようだ。

2時に目が覚め3時間雑念に耽っている。気が付いてみると5時のニュースが始まっている。もう暫く眠るか……？でなければ、すべて忘れて祈りを捧げながら無能であることを紛らわしてみるか……？岐路に立った。

やはり、心が揺れるのを止める祈りをすれば何かが生じるだろう……！と言う考えが私の心を支配する。先ず一日でも抜けたら、私が食事をしないのと同じ掲示板の活動を、今日も埋めなくてはならないと考えて、先ずキーボードから取り揃える。

今日も変わらぬ心、身体、行動が昨日と同じく変わらずに順調であることを望むのみだ。それ以上望めば欲というものだ……もっとうまくやろうとすればもっと悪いことが起こることもあるのだ。健康回復とこの程度の幸福が続くことを望む。

人相が変わるのかと思い心配だ

人々の顔を見ると、爽やかに笑っている人相、しかめ面で腹を立てている人相、苦しげな人相、誰かに害を与えようと刃物を忍ばせている人相、慈しみに満ちて愛らしい人相などなど、即ち見る人をしてその初めの人相を心に留めさせることになる。多くの苦勞をした人の顔には黥章……これは、よく皺の寄った肌と評されることになる。

だが、そうとばかり思うことは出来ない。習慣性も無視することは出来ない。額に皺が多く出来る人は子供の頃から上を仰いで見る習慣から皺が生じ、顔をしょっちゅうしかめていれば顔の柔らかい皮膚の部分に皺が出来、よく目で笑う人には目尻にカラスの足跡が現れ、そんなことが定着すると顔に皺の寄った肌が増えてくる。

しかし、すべての人間がそうだとばかり見ることは出来ない。元来皮膚の質によって例外が沢山ある。田舎で農作業をし多くの苦勞をしながら生きてきた女性は、都市で楽に生きてきた同じ年令の女性とは10歳は違いがあるようだ。したがって習慣から生じるもののような。私は毎朝起きるときには腰の痛みから顔をしかめる。今日が29日目だ。毎朝起き上がろうとすると痛みには耐えられず顔をしかめるので、それが私の顔の人相を変えてしまわないかと心配だ。顔は和やかでなくてはならない。

明るく慈しみ深い顔は和やかさの象徴だ。それで、しかめ面は見る人すべてが嫌いな顔ではないのか……！腰が早く治って顔をしかめなくなるよう願っている。

柿の葉っぱが揺れるとき

目が覚めると壁掛け扇風機が暑さを冷ましてくれている。この扇風機の風は、回る音が暑さを冷ます能力を奪って半減させてしまうようだ。新鮮な風とは、清涼な風を顔と体が喜んで受けてくれる、愛をたっぷり含んだ自然の風でなければならない。だから、眼を開けると先ず、窓から見える外灯の横の柿の木を見るようになる。

柿の木の葉っぱが揺れるとき……私は心に希望を持つ。窓を開けると、木の葉を揺らせていた清涼な風が私の部屋に入って来て、みんなを爽快な気分させてくれるからだ。

昨夜の天気予報では、ソウルが429mm、永川という所は820mmという豪雨で多くの被害があったといい、今晚は台風……「オルガ」とかいう大きな心配の種が我々を威嚇していると言う。ところで、何時間も経たない今朝はまだ昔の伝

説と同じようなもので、現実主義者の私には実感が湧かない。静かに柿の木から吹いてくる朝風、涼しい風、体の中を綺麗に洗ってくれる清涼剤だが、いま中部地方では雨の被害で多くの罹災者が苦労していることを知らないことはない。

しかし、自分自身が当面しないので、此処では被害がないといって、「よいやよいやさ、チントンテン」とやっているのを昨日テレビで見たが、その渦の中で、海雲台ではアンソンヨン市場まで出て来て、いま盛大な蓄財をするときなのか……？と嘆いてもみる。

現実主義者だといっても、自分が出会わない不幸でも、民族の悲しみを共に分かち合わなくてはならないのではないかと……？と考える。

今日

雷鳴で目を覚ますと雨が土砂降りだった。部屋に掛けてあるデジタルは消えていて、窓を叩いていた昨夜の雨に予め恐れをなし……窓にしっかりと錠を掛けておいた……雨の音が不安な気持ちにさせ、大きな被害を受けた避難民の実情を実感を持って想像してみる。コンピューターを開け、ひと言笑い声を上げてみた。

それから再び横になって、一眠りして起き上がりながら腰を試してみる。腰は1mm程度好転している。昼は静かな雨が降る通りを用心しながら歩き回った。雨中の散策は情緒的だ。雨傘に落ちる雨粒は人間達に戯れているが、人間達は貴重な体を守っている。

院長は明日から4日間休暇だと言う。その話を聞いて私は夏休みの気分だ。実は、病院に毎日行くというのは容易なことでない。さらに言えば苦役だ。退屈な時間を待って、ほかほかした注射をしてもらうのが良いことはない。腰さえ持ちこたえられるなら逃避でもしてしまいたかった。その間楽に休もう……そうすればその間に腰も治り、病院にも行かなくて良いようになるだろう……。

無が第一

仏教の言葉だが、

[1]子女を持つ人は嬉しい気持ちで生きていて、土地を持つ人は楽しい気持ち

で生きている。

[2]子女を持つ人は心配な気持ちで生きていて、土地を持つ人は辛い気持ちで生きている。

[3]子女がない人は苦勞することなく、土地がない人は心配することがない。知っていることは病で、知らないことは仏だと言った。だが、このように人生を生きると虚無になる。知ることは力だ。知らないことは知った振りをするな、ということだ。そんな心構えが正に知識であり人格なのだ。

(1) 子息がいると言って自慢するな。孝子と不孝子は父母が作った虚飾だ。

(2) だが、自慢しなかった子息が孝子にもなり、不孝子にもなるとき、自然に判定される。

(3) 孝子が突然不孝子に変わる瞬間は子息を自慢したことを後悔する。

(4) 子息は独身のときは孝子で、結婚して相手が出来ると、直ぐに不孝子になることが多い。

(5) それは嫁の如何による。子息はみんな誠を女房に移し、父母から離れるのだ。

(6) そうであれば無が第一だ。なければ望むことはないので気持ちが楽ではないか……。

スピード秋風

今日は終日涼しい秋風が室内を荒らし、本当に時ならぬスピード秋風だ。暑いので窓を開けておき、夜になれば埃でも何でも吹き飛ばして部屋を掃除して、寢床を敷いて、覚悟して時ならぬ秋風と向き合いながら、終日楽に休んでいる。

心配した台風『ポール』の影響だと言うが、有難い台風だ。今夜釜山に到達すると言う『ポール』は、だんだん弱くなり大きな被害はないようだという。しかし通り過ぎなくては分からないのだから、すべてのことは信じられない。

明日が立秋だと言ったかな……？その影響もあるだろう……！とにかく良いことだけして、多くの被害は災いを転じて福と成ることを願うのみだ。最善を尽くしながら、ひるまず生きて行こう……。

寢坊そして食いしん坊

今日は一日中寝坊そして食いしん坊になった。横になってから起き上がるとき少し楽になったからか……？しきりに横になりたくて、横になれば正体もなく眠りこけてしまう。そして起きれば腹が空いて腹を満たしたくなる。突然に食いしん坊になったようで……。

今日は友人と会って昼食をとり、デジタル壁時計を一つ買い、店をやっている友人に預けておいて郵便局に行き、幾らか入金させているので昔の後輩職員が喜んで奨励品を一つくれるので貰ってきて、時計を預けておいた友人の店にまた預けてクリニックに行き、注射を打ち物理療法も受けた。そしてまたその店に行き、預けておいた物を受け取ってタクシーを拾った。

家に帰るやシャワーを浴び、窓から入って来る涼しい風にスーッと寝込み……1時間以上気分良く寝たのは、昼食時ちびちびやったそのちびちびの影響だったのだろう……！ところが、夕食を食べて昼に飲んだ酒の影響なのかまた眠り、今まで寝て今起きるともう9時になっていた。それが良いことや悪いことやら。私にも分からない……。

水と火

水と火は互いに争う。水は火で煮詰められ、火は水で消される。今回は水が大きく氾濫して沢山の人を死なせ衣食住に脅威を与えることになり、天災異変を人間に見せてくれた。

天の恐ろしさを確認できて、我々が今まで生きてきたことをもう一度反省する機会を持つことが出来た。しかし天災異変だと肯定しているだけでいいのだろうか……？と考えると、もう一度人間が責任を負わなければならない反省を深重にしなければならないのだ。今の人間が、天の罰を受けることを余りにも多くして、その罰を受けているとすれば、大きく言えば人災だと見てよいのではないか……？とも考えてみる。

60億の世界人口の3分の1は、甚だしい場合は飲み水が足りなくて苦痛を受けていて……国民が食べる物がなくてご飯を抜く人間がどんなに多いか……を知らない人が横暴に振舞い、飲食物をむやみに捨てて、この世の中で存在するのは自分一人だと考える、人間らしくない例が多いから、天が雷を殴ったら、罪のない人に落ちて被害を与え、本当に極刑（陵遅処斬）を受けるべき人は厚かましく知らぬ顔をしている有様だ。

今は酷暑が始まっている。また誰が被害を被ることなのか……罪を負う悪人はユダだったのに、罰はイエスが受けたのと同じわけだ。

地中から聞こえてくる歌声

パンソリ*を聞いていると地中から聞こえてくるようだ。何故そうなのか...
...?昔の人が死んで地中に入って行ったからか.....?昔の名唱だけではない...
...昔の歌を歌えばその魂が染み込んで、昔の人が歌うように地中から遠く遠く
かすかに聞こえてくる。

更に西便制**の哀れな表現で尚更そうなのかも知れない.....その感情を受け
入れて昔の人に会っているようだ。我々の先祖の面影をしのびながら歌の真髄
が明らかになる。私は部屋の床に耳を当て、流れて来る日本の歌を鑑賞してい
る。我々のパンソリとは違う。しかし昔の故人の歌と声とその情緒は、当時と
は違うが、地中に埋められた昔の人間が甦るのに違いない。

それがオンドル部屋の中にももっていて私の耳元で囁いているようだ。今日
は昔の人と話しをし、歌も聞きながら半日を過ごしたと思うと、殊更昔が懐か
しい。

訳者注： * 伝統芸能の一つで語り物を節をつけて唄うもの。

* * 韓国映画「あの丘を越えて」は日本でも有名になった。

窓辺に座り涼風に酔っている

昨夜も熱風は前どおりで睡眠を取れず、大邱では山にテントを張って置いて
夜を過ごし、翌日は真っ直ぐ職場へ出勤するというテレビの報道を見て、生活
の現実主義を実感するようになった。やはり昨夜も夜中の熱風はひどかった。
夜中にサイレンの音で睡眠を破られ、消防車の音なのかパトカーの音なのか分
からないが、太宗路を疾走する何台かのサイレンの合唱が遠くなったり近くな
ったりした。それは2時頃のことだ。そんなことを考えながら今私は窓辺で眼
を閉じて時折吹いてくる涼風に酔っている。

睡眠から覚めているのかいないのか.....?涼風の強さに不満なのか、まだ頭
がすっきりしない。私だけ暑い夜を過ごして来たのではない。皆一緒に暑い夜
に苦労している.....何故君は暑い中で寝ているのか.....?と恨むことはない。

*

**

大邱の山で眠ってそのまま職場に出勤した人を何故……？ そうなのか尋ねるなら尋ねる人が狂った人だ……。

しかしこの世の中には、自分勝手に生きてテント生活をしている人を恨む人が正しい、と考えている人もいるのか……？ 世の中には非常に妙な人も多いな……！ 他人に被害を与えなければ恨むことはない……。

善と悪の共存

悪の世の中では一つの善は強力な光を出す。乱世に忠臣が出るという話と同じだ。この世の中ですべての人が、悪がなく善で生きていける天国ならばそれは人の国でなく、アダムとイブの原罪を正す必要はないのだ。悪人は自身が犯した悪業を認識できないので悔いることも出来ない。悪で全身が武装されているからだ。悪人は目に見える物は自分の物で、目に見える人は皆が敵だ。それ故、善導するのは難しい。

昔、江原道の山奥に金持ちの家があって、時々僧が訪れ積善を願った。金持ちは絶対に米一粒も与えようとしなかった。その家の嫁は心が良く、米を隠しておき僧が来るのを待って与えてやった。ある日、その僧がその家の嫁に『この道を赤ん坊だけ背負って早く去って行きなさい。何かあっても振り返ってはいけません』と言った。

嫁が僧の言うとおり幼い子供を背負って行くと、家が心配になって堪らなかったが、我慢して丘を越えて行った。するとガン……！ という雷の音に振り返ると、自分の家はなくなって、その近所が大きな池になって跡形もなくなっていた。同時に、絶対に振り返るなと言ったのに振り返ったので、赤ん坊を背負って後ろを振り返った姿のまま石仏になってしまった。それでこの池は今の黄池という池になり石仏は今でも丘に立っている……。

背負ったリュックサックに人形がぶら下がって

末っ子の孫娘が出勤しながら「行ってきます」と言って玄関を出て行く。私は背中に背負ったリュックサックを見て、ぶら下がっている拳くらいの犬の人形が可笑しくて、その母に尋ねてみた。あの子は今幾つ……？ というと、25です。昔なら嫁に行って子供を二人は産んだものだ。ところがリュックサック

にぶら下がった人形を見ると幼稚園児と同じだな……とみんなで笑った……。

時代に従って大人が子供の服装に変わって行って、老人が青春のデザインに後戻りして若さを再演しようとする。そんな潮流に倣って長寿が強調され実現している現実で、昔なら若くはないという態度を、30代で50代のように見せようとして、煙管の長いのを手に持って、エヘン～～と言った時とはその思想が倒したのだ。

今は60になった老人は年を取ったことが恥ずかしく、50に偽装する時代になった。子供達が子供の態度を取ればもっと可愛がってやろう……。

西山を越えて行く火の玉は

終日照りつけていた火の玉は遂に西山を越えて疲れ果てたように力なく消えて行く。夜になっても熱い日は冷えることなく寝そびれるのか……？立秋は過ぎて秋ではあるが……コオロギの声はまだ聞こえないなあ。小川がちょろちょろ流れる渓谷で一夜を楽しんだ過ぎ去った日を回想していると、報せが来る……裏の小山でなく前の小山を越えてバスに乗って行ってみよう……！今はそんな所はないから……？

大興寺の入口は道が山道で、水がちょろちょろ流れる道で、大きな石で橋を造ってあり、恐々踏みしめながら歩いて行けば、100年も越えた木造の建物があったなあ……そこに座って話をし寝たっけ……何時ごろの話かな……？40年前の話だ……！既に昔の話よ……！

そして夏の夜中の茂みの中の光景は、蛍（犬糞虫）が雪が降るようにひらひらと飛び、私の行く手を照らしてくれた有難さを、今になって感謝してどうなるろう。今はそんな情緒のある人生を味わえない世の中になってしまった。何処に行っても潤いのない人生で、情景は消えてしまったので記録することがなくなった……。

今日は光復節、こおろぎが合唱して記念式を挙げる

暗い道端では時折タクシーが通り過ぎるとこおろぎの合唱が中断される。こおろぎが合唱を中断したのではなく自動車の音に合唱が崩れるのだ。夜明けの風が涼しくこおろぎの声が聞こえ、光復節に合わせて初めてこおろぎが秋にお

目見えするようだ。秋だ。夏空と秋空が互いに行きつ戻りつ別れを惜しむのか……？ 流れる雲に夕立でも降りそうなどんよりした天気は、光復の楽しかった日を思い出させる一方、36年間の虐待され苦勞の多かった日々を思い出させるようでもある。

今日は光復節だ。太極旗を高く掲げよう。高々とはためく太極旗は大韓の国民なら仰ぎ敬う象徴だ。やはり今日は夏から秋へ移る境界線のようだ。ついに夕立がためらうことなく降り注ぐ。太極旗が雨に濡れる。しかし、取り込むには惜しい。風に翩翩とはためく。雨は上がる。

太極旗を隠しておいて、日本の巡査に見つかれば捕らえられ監獄に入れられて命まで奪われた時代もあったので、わが国の太極旗を誇らしげに掲揚するのだが、それすら嫌って太極旗さえ持たない国民もいるが、もの悲しい話でなくて何だろう……。

今日が末伏だって……？

末伏が過ぎればもう暑くはないだろう……！ と思いながらいつの間にか過ぎ去ってしまうのが末伏だと判っていたが、それが今日だというので暦で調べて見たくなる。初伏が7月17日で、中伏はその10日後の7月27日だったが、末伏は何と……20日後の8月16日なのか……？ 判ったようで判らないな……好き勝手に作ったのだな……ということは……作った両班は私より知識がない、と言おうと思い……止めよう……何れにせよ、もう秋だなあ……それで昨夜は涼しく甘い夢を見たのだ。

処暑が8月23日だというから、そうなれば本当に天高く馬が肥えるという天高馬肥……昔の文字だが懐かしくなる。天高く馬肥えるのみなのか……稲が金色に稔り、五穀が豊饒であっても、人間だと肥らないのか……？ 今年も暴風で穀食が減収になるのだというが、錦繡江山は守られるだろう……と思いつつ天に縋ってみる……いつでも熱心に仕事をし、神様に祈りを捧げ、善良な心で生きていくなれば、その甲斐があるものだ……。

一眠りしたら生き返るようだ

昼食時に会って薬酒を一杯やり楽しい話をした誰々と誰々（秘密）、その薬酒

が本当に薬だったのか！ 私は3杯で力が抜け眠気を催し始め、急いで家に帰ってまず暑いのでシャワーを浴び昼寝をしたが、1時間も眠ったのか頭がすっきりし爽やかな秋風が耳に当たり、そのまま眠る気でいたところ、娘と孫がソウルに行くという。孫が入隊のため学校の休学手続きをするというので名残惜しい気分だ。

未伏の今日はまだ暑い天気だ。やはり季節というものは人間の力では食い止めることはできない。ただ腰の関係なのかしょっちゅう疲労感を覚える。それで今日はクリニックに行かなかった。横になっていたかった。私の気持ちはもう少し遊んで来たかった。今から今日の1時間でも楽しく過ごし楽な姿勢を保ちながら、したいことをすれば気持ちも楽になろうものだが.....。

牽牛と織女が逢うと言う七月七夕には

幸いにも天気は良さそうなので牽牛と織女が首尾よく出逢って別れたら、3日間は悲しくてその涙が雨となり衣の袖を濡らすのだなあ.....そのせいで連日の観光も雨に会いながらバスの中で過ごさなくてはならない。

晴雨にかかわらず、とても面白い旅行で自由に振舞えるのだ.....人が活動するのに雨が降ろうが雪が降ろうが関係があろうか.....？ 牽牛と織女が懐かしく出逢う日くらいは天気がよくなってはならないだろうが.....！ その日を除いてはいつでもよい.....雨降りの日のデートは一層美しいだろう.....？

18日...19日...20日連続して雨が降るといふ。それも面白いだろう。サウナへ入って行く人は入って行け。私は雨の降る山の中で酒でもちびちび飲み一眠りすれば天国なのだ。それが分かる人は幾らもないだろう！

神仙でなくては分かるはずがない。ちよろちよろ流れ下る渓谷の水に足首まで浸し、岩に腰掛けて次に行く所を論ずれば神仙なのだが。

虎が結婚式を挙げるため妻の家に行くんだって？

夜中に雨が降ったのは分かっていたが、全くよい天気だ。

私は今日することが多くて、これも駄目、あれも駄目と計画が負担となり、どうしようもなくなって、今日の仕事を修正しなくてはならなかった。まず玄関のドアの修理を別の日に変更してくれとサッシュュ店に電話した。私は明日も

明後日も都合が悪い。20日にしようという、サッシュ店の社長がそれは駄目だという。仕方なく21日に延期して、まず8時半に義兄弟の誕生祝の朝食をする集まりがある……。

出席しなくてはならないし、それから今日の集まりがあって、その間にセマウル金庫と郵便局に行って資金の工面をしなくては……！

雨が降る……太陽は完全に昇って、今日雨傘を持っているのは似合わない……孫娘が窓の外を眺めていたが「虎が嫁取りに行くよ」という……そうだ、幼い時、太陽が昇っていて雨が降れば、虎が結婚式を挙げるため妻の家に行くと言ったなあ……。

地震は天災地変だが

地理的には地震が発生する危険性のある所は予め分かっている。だが被災を防ぎうる方法は、そこに住まない事しかない。しょっちゅう発生するものではないので、現実には忘れて住んでいては思わぬ事故に遭う事になるのだ。

テレビでアフリカの海岸地域の赤色で表示されている所や、東南アジアの地震発生地域を表示したのを見ると、いつも不安な気持ちを抱いて住んでいるのは人生の賭博に思える。日本の東京大震災など、いつ不幸な事故が発生するか分からないため人々はびくびくしながら生活している。今回のトルコの震災も3千人が死に、1万人が負傷し、1万人が埋められている。推算だが、こんなことでもなければ36年間に世界の人口は2倍に増えるので、何百年後には地球が人間で覆われるのではないかと……？などと考えても見る。

今回のわが国の洪水も、いつもの所で被害を受けているので、そこを避けて住まなくてはならないと思う。地球が人間で覆われることが問題なのではなく、いまでも人口が多く、3分の1の人口が水が不足し食料がなくて飢餓状態に喘いでいるという。そうかといって、天災地変や戦争による人口の減少を願うのではなく、事前計画で人口増加を防がなくてはならないと思う。

疲れるのは

しきりに横になりたい……疲れる……それなら病院に行ってみなくては……でも行くのが嫌だ……だが眼科で白内障の手術をしようと思うなら内科へ行っ

て、して来なければならぬことがあるということだ……それは、麻酔をして手術をするので麻酔の出来ない病気があると手術できないからというのだ。

その後で27日には眼科で精密検査を始めることになる。やむを得ず内科を訪ねて行った。それも患者が多く2時間待たされた。町内の小さな内科だと数分間ですむことだ。そればかりでなく、診察料も数千ウォンですむところを4万ウォンという大金を要した。

それは、X線写真も撮り、心電図検査という生まれて初めてのこともやり、指の血も採って糖尿病の有無を調べ、また他の箇所からは今度は右の指の血を採って心臓検査だとか何だとかいい、再び看護婦が動脈から血を抜いて何に使うのか、それだけでなく小便検査も省かずにやるので、することは全部やった訳だ……朝9時にもならない前に来て、11時を過ぎて終わったので、考えてみると、それだけの手数料もくれというだけの値打ちはあった。

ところで、直ぐに「検査回信書」を受け取って帰れるものと思っていたが、5時にもう一度来いという。家に帰るにも疲れて疲労困憊の態で、タクシーで帰り、一眠りして休んでから5時にまた町営バスで内科に行った。結果の説明を聞くと、すべて手術に支障ないがただ一つ肝機能が40までは正常だが60だということだ。だから疲れるのだという。

なるほど私は疲れる。私は腰の関係だと思っていたが、肝臓の関係だとすると今は用心しなくてはならないと思う。文を書く時も、何日か前からは疲れて支障がある。これからは忙しい。8月23日は12時に情報通信協力会へ出席し、午後2時に元老坊の教育に出席しなくてはならない。8月25日にはソウル情報通信協議会へ出席しなくてはならない……会長が教育しなくてはとソウルへは私が行かなくてはならない。午後車に乗ってソウルに行き、夜発って8月26日の会議に間に合うよう、夜釜山に到着すればよい。それから27日には眼科に行き精密検査を受け、9月3日にはこの眼科に入院し手術を受け、9月4日には退院するのだ。

今からは疲れの症状が完治するまで飲酒を慎まなくてはならない。今、キーボードを叩きながらも疲れて横になりたくて堪らない。急に肝臓がどうしてこんなに悪くなるのかと医師に聞くと、突然そうなることもあるという。

秋風の囁き

朝早くから熱い風呂の湯を一杯に満たし、首だけ出してガス温水器を眺めながら、思い出したことがあって静かに思いをめぐらす。23年前にこの家を建

てるときに設置した温水器がまだ壊れず活躍して役割を果たしているなあ……
と思いながら感嘆する。しかし私は12年前に設置した深夜電気の温水だけ使
用している……これはほかの操作を要せず、蛇口をひねるだけでよいからだ。
私は目を閉じたり開けたりしながら今日の仕事のことを考える。

30分の間、熱い湯の中で腰と首までも凝った所をこの湯の中できれいに洗
って捨ててしまいたいと思うのみだ。やはり体が少し軽くなったみたいだ。小
さな窓を通して見ると、綿をきれぎれに千切って青い空を覆ったようで、その
間から見える青い空は秋を知らせてくれるようだ。

2階から誰か降りてきた足音がする。私を呼ぶ。女房だ。どうしたんだ……
いやいや……私が風呂場に入ってから1時間になっても心配がなく静かなので
……あるいは……？ 死んだのではないかと思って呼んでみたようだ。わしは
……生きとるぞ……と言おうとしたが我慢した。湯から出て孫娘のベッドで一
眠りした。

そのせいではないが孫娘が私の所に来て、おじいちゃんの携帯電話を私のと
交換してはだめ……？ お前のはどんなのか……というと、大きい旧型だ……私
は三星の可愛い最新の小型を買って使っていたのを女房にやったが、大き
さを比べてみるとうんと大きい。32万ウォン出して買ったものだが、もう一
つ買ってやっても惜しくはないがと思って、女房に、交換してやるか？……と
いうと……こいつが……とって笑うので、孫娘が媚びへつらう。気分が良くど
うしようもない。それだけ見ても満足だ。番号を変えるとって私の住民証を
くれというので、やった。湯から出るとき、夏とは違った温度に皮膚が冷たい
のを感じる……秋が近付きながら、今は夏ではないよ～～秋だよ～～と囁く…
…そうだな、秋とやらだ、と言いながら下着を取り揃える。手提げ鞆の中に何
種類かの衣類を更に入れた……。

白内障手術の認識

白内障だといえば、よく知らない人は「それは病気なのか……！」とたやす
く考える……何故そうなのかといえば15分もあれば手術してしまう簡単な治
療が手術だと考えているからだ。ある人は90歳の老人だが、ちょっと出掛け
て眼に眼帯をして帰ってきた……子供達と孫達は眼科に行ってきたと思ってい
たが、調べてみると白内障の手術をしていたという……そんなことだからだ。
眼科病院に行って15分間で手術をして、直ぐに眼帯だけをして道を闊歩し家
に帰ったという話になる……。

私もこんな話を聞いて、私が手術するのを心配もせず……眼科の医者が、白内障を手術する時が来ましたのでといいながら……私は手術をしません……という老医者言葉を聞いて、どの眼科でやらなくてはならないのか……？とためらっていたが、6ヶ月くらい後に手術を急いでしなくてはならないことに気がついた……それは白内障にかかった左眼が、白紙で覆われたように見えなくなったのを、右眼を覆って見てはじめて知りえたのだ……大変だ……急いで手術をしなくては……！と気がせく……インナさんの病院指定により「イソンヒ眼科」に行った……。

外部から見たのと違って患者が超満員で待ち時間がうんと掛かった。5号室に入るように私の名前が呼ばれた。簡単な検査をし再び待合室で待つように言われ待っていると、順番通り6号室に入るよう言われ入って行くと、手術日を9月3日に決め、朝8時に病院に来るように、また1週間の余裕期間中に内科病院へ行き診察を受けるよう言われ、証明の様式と内科病院の医者宛の依頼文が印刷されている書類をくれた……私はそれを受け取って聞いてみた……これは何のため必要なのですか……？すると、手術に支障があればいけないからという……。

そうして近くのキムヨン Chol 内科で、病院が開くのを待って午前中は診察に費やした……診察をすべて受けると、証明書は午後5時に再び来て医者を訪ねるようという……再び5時に病院に行き、診察の説明を聞き、ほかの病気はないから手術を受けられるという証明書を貰い家に帰った……今は9月3日8時にイ眼科に行き手術を受けさえすればよい……。

手術する日には、お金と入院中に使う歯ブラシ、歯磨き粉、スプーンまで持って8時に行くと、8時半に入院室を決める。2人部屋は3万5千ウォン、個室は5万ウォンというので、一日入院には楽な方がよいだろうと思って個室に決め直ぐ入院した。そして、入院室に近い手術室に移された。手術室は三重の部屋からなっていて、一部屋を通って入って行くと、もう一部屋あり、その奥の部屋だった。通り過ぎた部屋はすべて手術台があった。ついに歯科にあるような手術台に上がって横になった。入院前に医者の所で調べて、レーザーで手術は15分で済むという話を聞いていたので、そうなのかと聞くと20分は掛かりますといいながら、ご隠居さんは手術の時期が遅すぎるので在来式手術をしなくてはなりませんという。刃物で手術をするという話だった。私は不安に思って、それでは痛くはないかという、麻酔をするので全然痛くありませんという。しかし、うまく行くのか、そして眼球がちゃんと合うだろうか……？私はますます不安になった。古い眼球をレーザーでポン……取り除いて、新しい眼球をすうっと入れるのに20分掛かるのならどんなにいいだろう……！と思ったのにそうではなく、私は在来式の刃物で眼球を切り取り、古い眼球を抜き

取り新しい眼球を入れ、糸で縫い、癒える時まで眼を覆って生活しなくてはならないのか……？眼球を入れ替えるのにその時期の遅い早いがあったかな……私は心配が山ほどある。インナさんは心配することはないという。医者がそういって結果が良ければ医者技術も脚光を浴びることになり、患者も医者を褒めるならば、互いに良い気分にならぬのではないか……！手術台では顔全体を覆い、二人の看護婦が交代で、左眼だけ穴が開いた所から手術する眼に眼薬を入れる人……薬を塗る人…そのうちに時間は準備時間が20分掛かったようだった。ついに医者の番のようだ。眼を上へだとか、下へ、横へ動かせと言いながらかなり長い間手術をした。痛くはなく、ただ息苦しいだけだった。長い時間が掛かり、40分あれば済むというのが1時間掛かったようだった。鉏で糸を切るブツン……という音に糸で縫ったのだな……と思った。顔を覆っていたものは脱げ、眼はガーゼで覆ったまま入院室に戻った。そうすると手術室に行くための時間から入院室に戻ってベッドに横になる時間までは2時間掛かった。怪しからん……15分が何だ……といいながら病室生活を始めることになり、しょっちゅう看護婦が入って来て薬をくれたり注射をしたりして、夜は眼のガーゼをはがし、眼薬を入れて行く。保護者である女房は別の低い寝台で、運ばれて来た食事を食べながら稀にしか味わえない生活をする。

翌日は退院の日なので、3時ごろに薬と注意事項などをプリントで受け取り、マイカーで退院した。問題はこれからだ。ソソファさんの話のように、手術して2ヶ月は用心しなくてはならないということが一番重要な問題のようだ。コサン先生の言葉通り、医者が酒の一杯は構わないというけれど、飲んではいけない。

警告された注意事項を忘れてはいけない……今私はキーボードを叩いているが不安だ……一ヶ月過ぎた後でキーボードも叩かなくてはいけないということだ……その間決められた日時に病院に行き検眼を受けなくてはいけない……次は12月12日だ。次第に遅らされる検眼日は私の心に安堵感を与えてくれる。退院する日に検眼すると0.8だったが、私の眼は元来1.5だったのに、こうなったせいでやっと0.8か……と心の中で思っていると検眼士が言った言葉は、私の思っていることを読んだのか……何も見えなかった眼が0.8ならよく出来たものですよという。他人が私の内部に入って来たので面食らった。

しかし何日か後に0.6になってからは視力が上がらない。右側の眼も測ってみると0.6だ。同じ0.6でも品質が違う。手術した眼はカラーが全然違う。白いものはとても鮮明に白く、赤いものは華麗だ。原色そのものだ。今は眼鏡屋に行って左側だけレンズを交換しなくてはならない。これは人生はパンクしたものを手直ししながら生きて行こう……！ということだ。あと何年生きてこんな目に会うのか……？一日でもいい……思い通りに生きよう……目だけではな

いか……！私は世界で一番小さいカメラも持っている。万年筆も世界一小さいものだ。珍しいものはすべて持っていたい。一日は靈魂になることもある。この世では存在したものが消え失せても、死ぬときそれが永遠に私の身に着くこともある……靈魂は私の体に永遠に同伴者となることもある。明日死んでも、眼は治して、死んだ後であの世からよく見える眼の持ち主になろう。白内障手術は15分という話を信じるのは止めて、2ヶ月掛かると覚悟して、落ち着いた気持ちで行えば心配ない。

秋風が吹き荒れ肌寒い

今年は老人の年。10月1日は国軍の日と重なって世界老人の日なので、わが国の老人の日は10月2日と決まってから3年経った。3日の開天節も過ぎ、私は病気を口実に部屋の中にこもり切りで、今までパソコンも開けて見なかったが、2日からこっそりと開けてみた。この1ヶ月の間に別天地になったことは明らかだが、その量は変わっていない。みんな忙しく、そうなるのだろうけれど、釜山の元老達の掲示板活動を勧めたく思う。「こう言うと私も少し後味が悪い」……という考えは、互いに気まずくなるから、葛藤を持ち込んで全体に波紋を発生させるようなことをしないのがよいということのようだ。

人には言い分があり、詰ることは詰るのだといっても、当事者だけが言っていることに過ぎず……第三者は聞いていただけではないか……？そんな事情をよく観察して判断しなくてはならない。関係のない人が横から飛び出し、あれこれ言い立てるのは私は嫌いだ。これは体面を傷つけることになる。明朗社会、明朗職場、そして明朗な我々の元老社会を維持しよう。秋がどうしてこんなにも肌寒く感じられるのか……。

固く閉じた窓を開けると

その間、日差しが弱く冷え冷えとしていて、いつの間にか青い秋空に白い雲が次第に筋状に延び、懐かしい面々はあちこちに秋風に誘われ紅葉見物に行って、若返り美しくなったことだろうなあ……健康な元老坊の同志よ……おつも笑顔で幸せでいらっしゃるように。冬眠から目覚めた蛙が井戸の中から空を見上げて、過ぎた日が懐かしく……井戸端へ上がって来て、あちこち眺め回した

が誰もいないなあ。一人ぼっちの井戸端で。

掲示板をよく見ても、知る限りの人はみんな紅葉見物に行ったのか……？見当たらないなあ。新しい顔が時折見えるが、情け深い人なのか。それから、ムクヘが掲示板を守ってくれ、会長がホームページ教育に苦労し指針を掲示しているので退屈はしないだろうな。

みんな私を見て懐かしいと言ってくれるだろうか……？誰だったかな……？と言って、長い間見ていないので顔を忘れてしまったか……？疑問だ。そっと窓を開け外を眺めると新しい世界のようなあ。人の心は変わっていないだろう。人の心が変わるなら世の中はだめになるさ……コウンさん、ミウンさん、みんなが集まって一つに固まれば楽しい世の中になるのさ。

秋の空

秋の空は高く、白い雲が筋をなして浮かび、地上には色とりどりの花が満開で人々を差し招く。人々の気持ちは浮き立ち静かにしていることが出来ず、歩き回りたくなり、山に野に観光を楽しんでいる。体が疲れ頭が痛いので風邪を引いたのかな……？といて寝ている妻に、観光に行っておいで……とひとこと投げかけると……眼が輝き、顔が明るくなり、ばたばた衣服をはたきながら起き上がり、いつ病気になったのか……？という気色だ。

私には何よりも観光に行くことが万病の薬だ。酒党には酒が万病の薬のように……！ついに妻は「ニュー釜山観光」に惚れ込み、「五台山と雪岳山」の秘境のとりこになり、友達の間で挟まれて2泊3日間、ストレスをごみをはたくようにはたき落として帰って来た。

この間、家事はすべて忘れ、観光に行ってきた、その経過を報告する。釜山から江陵の烏竹軒に立ち寄り、五台山、小金剛、月精寺を見て、五台山で一晩過ごした。

翌日は……洛山寺を見て、束草で……観光エキスポを見物し、雪岳山の雪岳洞で宿泊した。その翌日は……三陟「ファンソン窟」の中を一回りして白岩温泉に入り帰ってきたと私に報告する。

秋風を捕まえようと出掛けたが

鼻っ面に一つ落ちた雨粒に驚いて帰ってきた。

何日間か体の具合が悪いのを口実にして部屋の中に閉じこもって過ごして来たが、敬老の宴を聖堂で行うからと勧められ出掛けてみたが、超満員なので簡単なクッパ一杯だけ食べて出て来た。家に帰ろうか？と思ったが、久しぶりに外の風の匂いを嗅ぎに何処かに行ってみたい気になった。だが、行くとしたら何処へ行こうか？となると、本当のところ行く所がない。突然誰かと会うと言う自信がない。

人は孤独なもの！竜頭山公園か？大庁公園か？そうだ！現代百貨店……でなければロッセ百貨店……！そんなことを考えながらバス停留所に立っていると……大庁公園に行く 186 番バスが来た。やみくもにバスに乗った。バスは国際市場を経てメリノル病院そして高い所にあるアパートの森の中を通りながら上がって行く。かなり長い間上がって行くと大庁公園の 4.19 塔が見える所に来た。私は急いで下車ベルを押し、バスを停止させ下車した。しかし、前に来てみた大庁公園の入り口は見え、どこか山奥の道を歩いていた。道なりに歩いて行くと、道の両側の森はお寺に入って行く気分させる。通り過ぎる人もない。かなりの時間歩いて行くと、遠くに車道が見え、両側の人道には人々が通り過ぎて行く。広い道を下って行くと登山道入口の立看板が立っている。中年の男が登山服を着て上がって来る。大庁公園を問うと、車道を下って少し行けばよいと教えてくれる。

ついに公園入口に入って行くと、大勢の老若の観光客が公園の椅子で楽しんでいた。一回りしていると、鼻っ面に雨粒が一つ落ちた。私は折角の遠足だが雨の前触れに驚いて、裏道の高い階段を二度も下り継いでバス停留所を探して下りて来てバスを待つことになった。幸いにも 186 番バスが来たので乗って帰った。私は、行くところのない人達が竜頭山公園で長椅子に寝転んだり……花札に時間を潰している老人達を見て、そんなにもすることがなくて、空しいことをしているのか……？と心の中で思い、今更のように惜まれる仕事のことを思い出し、彼等に同情した。

断髪した柿の木

25 年前の苗木が今は大きな柿の木になり表門の横にによきと立って、花木を影で覆い成長を妨害しているが、今年は柿が成熟し拳ほどの大きさの見事な柿が沢山生っている。きのう摘んだ柿は 50 個……そして摘まずにほっておいたのが 15 個ある。もっと熟すだろうと残しておいたのだ。

そして、柿の木は手入れをしてやれば明年沢山の柿が生ると言って娘と婿が枝の整理をしたのだが、果敢に切り取って断髪した髪のようになってしまった……上の方に伸びたのは鋸で切り、細い枝は剪定鋏で整理したのを見ると、むしろ明年の作況が心配になる。

今まで、ある年に柿が沢山生ると次の年は凶作だった柿の木が、今年はよく生ったが果たせるかな来年の収穫が期待されもする。剪定した枝は敷地内に散らかり、小さく鋸で切る作業も容易なことではない。

家族が忙しい一日を過ごすとき、農家の気持ちが連想される。狭い庭はまだ作業した痕跡で雑然としている。断髪したおかつぱの柿の木の成長を待とう…

…。